

# 教宣 せぶん

## ど っ ち だ ろ う ？

24日に「全損保日動火災外勤支部との団体交渉経緯(2)」なるレターが、全従業員に配信されました。内容は、「転進協定提案の撤回」を改めるよう支部から申し入れを受けたが、会社はこれを改めるつもりはまったくない旨を回答。また新たに再提案することもない旨を回答。東京都労働委員会でも同様の回答をした、と書かれてあります。

これを読んだ一般従業員の方の印象はどういうものになるでしょう？「あーあ、全損保は提訴なんかして、会社を怒らすものだから、転身支援金をもらえない。今さら頭を下げて、転身支援金を下さいって言ったって無理に決まっている。この期に及んで、やっぱり転身支援金を下さいなんてよく言えたものだ。こんなところではないでしょうか？

あのレターのテンションはまさに「全損保が困って頭を下げて転身支援金をくださいと言ってきた」「会社は、会社を訴えるような行為をした者にはビター文払わない」「会社を怒らすとこういうことになるのだ」というムードをつくるものになっています。会社が圧倒的に強く、優勢で、支部は弱く、劣勢というイメージをことさら強調しています。この手のレターが全従業員に配信されるのは2回目ですが、なぜ急に私たちとの交渉経緯を『全国配信』するようになったのでしょうか？なぜことさら会社の優勢を強調しなければならないのでしょうか？本当にこのたたかいに余裕があるなら、また本当にレターで会社が言わんとしているような、取るに足らない、白黒のハッキリした交渉・たたかいだというなら、わざわざ「全国配信」したり、躍起になって事実を捻じ曲げようとすることでしょくか？

レターには東京都労働委員会でも同様の回答をしたとはありますが、東京都労働委員会がそれを受けて何と言ったかにはまったく触れていません。どうしてでしょう？私たちの主張があって、会社の主張があって、それを取り持つ第三者機関があって、その第三者機関が何らかのコメントを発しているはずです。どうしてそのコメントは掲載されないのでしょうか？

冷静になって考えればわかるはずです。「私たちが転身支援金を要求したのは困っているからですか？当然の権利だからですか？」「本件を第三者機関である客観的な目や法に触れさせようとしていないのは会社ですか？私たちですか？」「このたたかいで困っている、あせっているのは会社ですか？私たちですか？」そしてこのたたかいで勝利の女神が微笑むのは会社ですか？私たちですか？